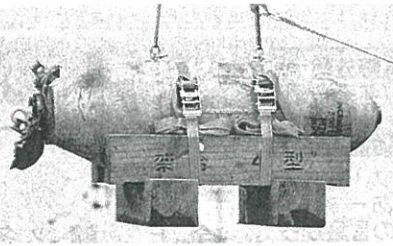


熊本で米落下傘爆弾

熊本市で見つかった不発弾
川城島勇人撮影



熊本市東区で7月、パラシュート付きの不発弾が見つかり、その後の調査で終戦直前に米軍により投下されたものと分かった。研究者の間では、米軍撮影の写真から鹿児島県の複数の都市にパラシュート付き爆弾が投下されたことが知られていたが、熊本県内でも見つかったことで「米軍がパラシュート爆弾を

南九州上陸準備で多用か

オリンピック作戦

米軍が1945年11月1日の決行を計画した南九州への上陸作戦。志布志湾、吹上浜、宮崎海岸の3カ所を強襲し、宮崎県都農町と鹿児島県薩摩川内市を東西に結ぶラインまで占領。翌年関東に上陸する際の支援拠点にする戦略で、日本軍は迎撃準備をしていた。

九州中南部で多用していた可能性が高まった」と指摘する。12月8日で太平洋戦争開戦から76年。空襲の実態は今も解明途上にある。不発弾は7月24日、下水道工事中に地下1・6メートルで見つかった。「M76」と呼ばれる大型焼夷弾で、直径約40センチ、長さ約1メートル、重さ約250キログラム。同じ場所では、布製のパラシュートと数本のワイヤも見つかり、ワイヤはいずれも不発弾とつながった状態だった。M76に記されていた。工藤事務局長らが米

今夏発見 終戦5日前に投下

軍の空襲記録と照合したところ、米軍が占領した沖縄に拠点を置いていた極東航空軍第5航空軍第3爆撃群団が1945年8月11日に現在の鹿児島県始良市加治木町を、翌日に久根木市といちき串木野市を空襲した際の写真と判明したという。米軍がパラシュート



1945年8月11日の加治木空襲で投下されたパラシュート付き爆弾。「空襲・戦災を記録する会全国連絡会議」の工藤洋三事務局長提供

撃機が現場上空を離脱できず、着弾までの間に爆撃機が現場上空を離脱できて機体への影響が避けられるためとみている。熊本の不発弾については「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」の高谷和生代表らが現場周辺の住民から聞き取り調査をしたほか、工藤事務局長ら研究者が米軍の空襲記録と照合。鹿児島への投下直前の10日午前11時ごろ、同じ第3爆撃群団の軽爆撃機が投下されたことが分かった。工藤事務局長によると、極東航空軍の主たる任務は九州の日本軍の飛行場、九州の都市や輸送網を破壊してオリンピック作戦の準備をすることが多かったとい

い、「熊本の不発弾発見によって、極東航空軍が同じような焼夷弾を九州中南部に多用していた可能性が高まった」と話している。【野呂賢治】